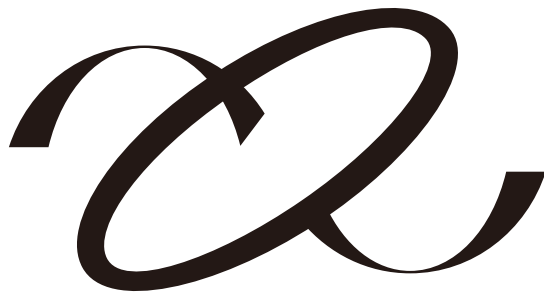


公益社団法人
石川県言語聴覚士会

年 報

2021年度 第4巻



Ishikawa
Speech-Language-Hearing
Therapist Association

目 次

2021 年度年報発刊に寄せて …… 公益社団法人 石川県言語聴覚士会 会長 徳田 紀子	
1. 公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要 ……	1
2. 2021 年度の主な事業一覧 ……	3
3. 2022 年度の主な事業・行事予定 ……	9
4. 2021 年度 研修会一覧 ……	10
1) 研修部	
①症例検討会	
②吃音研修会	
2) 学術部	
①生涯学習プログラム専門講座	
②石川県言語聴覚士会発足20周年記念講演会	
③第19回 北陸言語聴覚学術集会 抄録	
3) 地域支援局	
お食い締め浸透実践講座 「～『お食い締め』に向けて～ 食形態の選び方と介助の工夫」	
5. キャリアアップ支援事業 ……	20
6. 一般の方向けイベント ……	23
1) 「言語聴覚の日」 川柳コンテスト	
2) 県民公開講座 「能登で新・お食い締め」	
7. 他団体との連携事業 ……	25
1) 石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会研修会	
2) 石川 JRAT 活動報告	
3) 特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業	
8. 失語症者向け意思疎通支援者養成講習会報告 ……	32
9. 関連団体主催行事などへの参加活動 ……	33
1) 公益社団法人石川県脳卒中リハビリテーション協会への講師派遣	
2) 石川県失語症友の会研修会・月例会での協力施設	
3) 金沢市フレイル予防事業	

石川県言語聴覚士会シンボルマーク(表紙)の意味

直接的には、中心の輪の部分が「口」「耳(鼓膜)」「脳」を、サイドの曲線部分が「声・音(音波)」を抽象化したデザインです。

さらに、もうひとつの意味として、中心の輪は「コミュニケーションのバリア」、曲線は「つながり」をイメージしています。

つまり、このマークは、「コミュニケーションの輪を広げ、多様な人生との絆を深めよう」「社会や自分の中のバリアを突き破り、共に生きていこう！」という私たちのメッセージを象徴しているのです。

2021 年度年報 発刊に寄せて



公益社団法人
石川県言語聴覚士会
会長 徳田 紀子

Covid-19の感染が石川県内で確認されてからもう2年が経ちました。2021年度も第5波、第6波の影響を受けながら、様々な社会活動の在り方を問われた1年でした。コロナ禍からの脱出の兆しは見えないままですが、今年度は夏には1年延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックが、冬には北京オリンピック・パラリンピックが開催されました。ほとんどの競技が無観客開催となる異例な状況での大会でしたが、アスリートの皆さんの真摯に競技に向きあう姿に大きな感動と勇気をもらい、「もうひと頑張り」と気持ちを新たにすることもありました。今年1年を振り返ってみて、医療・介護・福祉分野に限らず、安心安全な社会となるよう日々創意工夫を繰り返しながら奮闘して下さっている方々が多くいらっしゃることを感じ、改めて深く感謝を申し上げたいと思います。

今年度の当会の活動も多くの事業が影響を受けました。2020年度から延期していた当会の設立20周年記念講演会や県民公開講座、北陸言語聴覚学術集会、お食い締め浸透講座、生涯学習プログラム研修会など、大規模な集会は全てWeb開催となりましたが、多くの方に参加をしていただき盛況に終えることができました。「言語聴覚の日」のイベントは、学びの杜ののいちカレードで展示を中心に開催し、川柳コンテストをWeb上で全国から作品を募集するなど、恒例の行事も姿を変えながら確実に広がりを見せています。「失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」では、今年度新たに5名の支援者が誕生しました。賛助団体企業様には、学術集会の抄録集の中で商品を紹介していただいたり、ニュースレターの「縁側ポチっと訪問日記」という企画で、会員の会話を交えて紹介させていただくこともありました。石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会の活動や県リハビリテーションセンターとの共催研修会も、皆様にご協力いただきながら実施できました。早急に体制作りが求められている災害リハビリテーションについては、石川JRATの活動が活発化しており、当会も微力ながらその一員として一緒に活動させていただいています。同時に会員を対象とした発災時の安否確認サービスの登録も進んでいます。振り返ってみると、会の内外問わず多くの方々のご協力があったからこそ実現した活動ばかりであり、関わって下さった皆様に深く感謝申し上げます。

これまで当たり前になっていた「コミュニケーション」や「楽しい飲・食」が不自由になったことで、それらの大切さを痛感した方も多いと思います。「コミュニケーション」や「飲む・食べる」を専門とする私達に何ができるのかを追求しながら、「地域に愛され必要とされる会」を目指して次の1年へ進んでいきたいと思います。今後とも何卒ご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2022 年 3 月 吉日

1. 公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要

2022 年 3 月現在

沿革：2000 年 4 月 9 日 石川県言語聴覚士会設立
2012 年 4 月 22 日 一般社団法人石川県言語聴覚士会へ移行
2018 年 4 月 1 日 公益社団法人石川県言語聴覚士会へ移行

事務局：

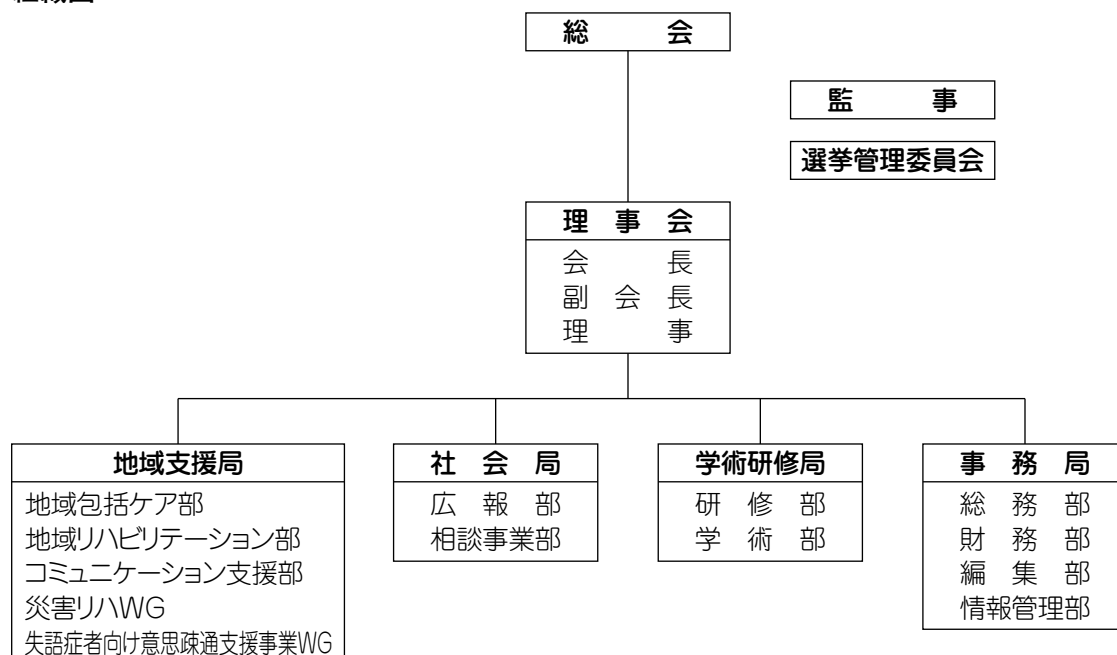
【 名称 】 公益社団法人石川県言語聴覚士会
【 住所 】 〒923-8551
石川県小松市八幡イ 12-7
やわたメディカルセンター 言語療法室内
【 TEL 】 0761-47-1212 (代)
【 E-mail 】 info@st-ishikawa.com
【 URL 】 <https://st-ishikawa.com/>

目 的：当法人は、県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを目的とし、言語聴覚士の技能及び資質の向上並びに言語聴覚療法及びサービスの普及・啓発・発展を図る。

事 業：

1. 県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進及び生活支援に関する事業
2. 言語聴覚療法の普及・発展に関する事業
3. 言語聴覚士の職業倫理及び社会的責務に関する事業
4. 言語聴覚士の知識及び技術の向上に関する事業
5. 関連団体との連携及び協力に関する事業
6. 会員の福利厚生に関する事業
7. 前各号に定める事業に関連する事業

組織図：



役 員：

任期：2021 年 5 月 23 日～2023 年 5 月総会

役 職 名		氏 名	所 属 施 設	役 割
代表理事	会 長	徳田 紀子	二ツ屋病院	会務の総括および渉外
理 事	副 会 長	上野真由美	金沢西病院	会長補佐 渉外・地域担当
	学術研修局 副学術研修局長統括部	藤田 徹	金沢こども医療福祉センター	会長補佐、症例検討 協会生涯学習基礎講座
	学 術 部	山崎 憲子	金沢医科大学病院	協会生涯学習専門講座 学術集会、会員研修プログラム
	社会局 社会局統括相談事業部	田嶋宏太郎	小松市民病院	関連団体との連携（講師派遣）
	広 報 部	塩本 将也	南ヶ丘病院	言語聴覚の日・介護フェスタ 広報活動
	地域支援局 地域支援局統括地域リハ部	谷口 昌代	KKR北陸 訪問看護ステーション	地域リハ関係業務
	コミュニケーション支援部	田畑 美香	やわたメディカルセンター	失語症者向け意思疎通支援事業の推進 コミュニケーション障害についての啓蒙
	災害リハWG	金沢 一恵	かがやきクリニック	災害医療に関する知識と技術を有する STの育成、石川JRATへの参加
	編 集 部	筒井 桜	金沢西病院	ニュースレター 年報の編集・発行
	財 務 部	清水 聡子	独立行政法人 国立病院機構 金沢医療センター	収支管理
	情報管理部	木村 彩乃	浅ノ川総合病院	会員情報管理・ホームページ管理 職能に関する情報収集・発信
	総 務 部	藪越 文佳	公立能登総合病院	窓口業務・各種文書管理・総会準備 法人関係業務・会員の親睦交流など
監 事		勝木 準 木下 浩美	芦城クリニック 石川療育センター	

会員数：合計 184 名

(2022 年 3 月 31 日現在)

正 会 員		157 名		
賛助会員	個人	3 名		
	団体	24団体	A 会員	やわたメディカルセンター、理研産業株式会社
			B 会員	株式会社アルバ、社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院
			C 会員	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院、医療法人社団 慈豊会、大生食品工業株式会社、株式会社 フードケア、マルト株式会社 印刷事業部、丸文通商株式会社、バランス株式会社、ニュートリー株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、株式会社明治中部支社 北陸オフィス、株式会社 大塚製薬工場、ティーアンドケー株式会社、医療法人社団 浅ノ川 桜ヶ丘病院、独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院、公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院、医療法人社団 博友会 金沢西病院、石川県済生会 金沢病院、医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院、株式会社 宮源、株式会社 gene
学生会員		0 名		

2. 2021年度の主な事業一覧

1. 言語聴覚士の質の向上（知識・技術の習得）および社会的責務に関する事業

新人育成のための研修

※Web研修・Web会議にはZoomを使用

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
新入会員オリエンテーション	藤田	①6月 8日 ②6月10日 ③6月11日	Web研修	3回ともにJAS生涯学習プログラム・ISTA会員研修プログラム等の概要や研修を中心とした説明、情報交換等実施。 ①5名(新入会員3名、既会員2名) ②5名(新入会員3名、既会員2名) ③5名(新入会員3名、既会員2名)
日本言語聴覚士協会 生涯学習基礎講座	藤田	9月18日	Web研修	①参加者11名(会員8名、会員外3名) 講師1名 ②参加者13名(会員10名、会員外3名) 講師1名 ①「職種連携論」 ②「臨床のマネージメントと職業倫理」
援助的コミュニケーション 入門	別所	中止		*新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
症例検討会	諏訪	11月4日	Web研修	参加者12名(会員12名、会員外0名) 発表者1名 「左被殻出血により失語症を呈した一例」
	大野	12月2日	小松市民病院 作業療法室	参加者11名(会員10名、会員外1名) 発表者1名 「偽性球麻痺を呈し栄養ルートの確立に難渋した1例」
	藤田	2月24日	Web研修	参加者12名(会員11名、会員外1名) 発表者1名 「失語症・音声障害を呈し、実用的コミュニケーションの場を通して声量増大・自発話増加に繋げた症例」

技術向上のための研修

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
介護報酬改定ミニセミナー	小森	*5月23日	ハイブリッド研修 (Webと参集) 金沢市 ものづくり会館	参加者60名(会員60名、会員外0名) 講師1名 「2021年度の介護保険報酬改定について」
第19回 北陸言語聴覚学術集会	山崎	11月21日	Web研修	参加者98名(会員44名、会員外54名) 一般演題9題(会員3題、会員外6題)
地域リハリーダー養成 研修会	谷口 上野	中止		参加希望者、受講対象者少数のため中止
日本言語聴覚士協会 生涯学習専門講座	山崎	8月28日	Web研修	参加者29名(会員18名、会員外11名：内JAS以外0名) 「難聴の基礎知識と高齢難聴者への対応」
石川県言語聴覚士会 20周年記念事業	山崎	11月21日	Web研修	参加者98名(会員44名、会員外54名：内JAS以外0名) 「前頭葉機能障害を抑制障害と捉える」
日本言語聴覚士協会 生涯学習ポイント対象研修会	藤田	10月24日	Web研修	参加者27名(会員17名、会員外10名) 講師1名 講演「吃音の言語聴覚療法の最近の動向」
ST向け基礎から学ぶ 呼吸器リハビリテーション	河本	3月13日	Web研修	参加者25名(会員24名、会員外1名) 講師1名
会員研修プログラム ベーシック コース「高次脳機能障害」	藤田	1月23日	Web研修	参加者18名(会員17名、会員外1名) 講師1名 講演「高次脳機能障害」
会員研修プログラム ベーシック コース「言語発達障害」	藤田	2月6日	Web研修	参加者20名(会員18名、会員外2名) 講師1名 講演「言語発達障害」
会員研修プログラム ベーシック コース「運動障害性構音障害」	藤田	2月13日	Web研修	参加者19名(会員19名、会員外0名) 講師1名 講演「運動障害性構音障害」

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
会員研修プログラム ベーシックコース「同職種連携」	藤田	3月6日	Web研修	参加者12名(会員12名、会員外0名) 講師1名 「同職種連携 ～失語症者の生活期の支援について考える～」
吃音相談・研修システム体制の運営(臨床施設調査、研修会、相談・紹介システム)	藤田 数越	10月24日	Web研修	参加者27名(会員17名、非会員10名) 講師1名 「吃音の言語聴覚療法の最近の動向」研修会

関係団体と合同で行う研修

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
石川県訪問リハビリテーション研修会	金沢	8月1日	Web研修	参加者48名(会員7名、会員外41名) ①講演会 「コロナ禍における訪問リハビリテーションの在り方 ～感染予防の基礎を踏まえた訪問リハビリの展開～」 ②実践報告 報告者3名(ST1名・PT1名・OT1名) ③情報交換会
		2月12日	Web研修	参加者33名(会員5名、会員外28名) ①講演会 「コロナ禍における訪問リハビリテーションの在り方 ～感染予防の基礎を踏まえた訪問リハビリの展開～」 ②グループワーク 1. コロナ禍における情報共有の工夫 (リハ職同士の情報共有・関連チームの情報共有) 2. 職場環境における多職種との情報共有の工夫
地域リハ塾 石川開催 『頸部聴診法・実習』	竹内	延期		*新型コロナウイルス感染防止のため開催中止 R4年度4月～5月に延期予定。
富山開催	竹内	8月7日	Web研修	参加者16名(会員4名、会員外12名：富山8名、福井4名) 「自宅で自分でできる発声法 ～声道の準狭窄を用いた様々な発声法」
福井開催	竹内	2月5日	Web研修	参加者11名(会員2名、会員外9名：富山3名、福井6名) 「『どんな教材を使っている?』 ～話してみたい、聞いてみたい、そんなこと～」
石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会、 県リハビリテーションセンター 共催の研修会	谷口 上野	1月22日	ハイブリッド研修 (Webと参集) 県リハビリテーション センター	市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修① PTOTST共通導入研修 参加者65名(会員3名、会員外62名：PT33名、OT27名) 講師3名(会員1名、会員外2名) 講演 「地域包括ケアシステムと地域リハビリテーション ～リハビリテーション専門職に必要な考え方～」 「各専門職における地域リハビリテーションに必要な視点 ～専門職として何ができるか～」 「適切な介護予防ケアマネジメントとアセスメント支援に ついて」 「効果ある短期集中予防サービスとセルフマネジメント 支援について」
石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会主催 の研修会	上野 谷口	3月19日	Web研修	市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修② 参加者58名(会員7名、会員外51名：ST7名、PT23 名、OT26名、他2名)

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
地域リハビリテーション研修会 (小松市地域リハビリテーション 連絡会と共催の研修会)	田畑	11月28日	Web研修	「笑顔の授業 in いしかわ ～障害とは何か、当事者からみたりハビリテーション～」 参加者28名(会員12名、会員外16名：PT11名、 OT4名、ケアマネージャー1名) 1部：研修「笑顔の授業」 2部：グループワーク 「研修内容に関する感想など」 「障害のある方の社会参加や社会生活に 必要なことなど」
石川JRAT研修会 今だから災害リハビリテーション を学ぶ ～過去の振り返りから現在の 取り組みまで～	金沢	11月16日	Web研修	参加者46名(会員3名、会員外43名) 講演 「能登半島地震における災害支援を振り返る」
		12月8日		参加者41名(会員5名、会員外36名) 講演 「地域包括ケア時代：災害と地域リハビリテーション ～長崎JRATの活動紹介～」
		1月29日		参加者42名(会員2名、会員外40名) 講演 「石川県版オンラインHUGで学ぶ災害リハビリテー ション」
		2月22日		参加者45名(会員3名、会員外42名) 講演 「令和2年7月豪雨における熊本JRATによるコロナ 禍での災害支援活動」

他団体が開催する研修会への派遣

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
失語症者向け意思疎通 支援者指導者養成研修	田畑	10月23日 24日	Web研修	会員3名 3名修了
JIMTEF災害医療研修会	金沢	11月20日	Web研修	会員1名 1名修了
診療報酬改定説明会	小森	3月12日	Web研修	会員1名

助成

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
キャリアアップ支援事業	藤田	通年		利用者4名(会員4名、会員外0名) 使用研修会名 【Webで学べる発達障害のアセスメントセミナー、 PECS®ワークショップ(2名)、認定言語聴覚士 (聴覚障害領域)】

2. 県民への言語聴覚療法等の普及・啓発及び支援に関する事業

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
県民公開講座 『能登で新・お食い締め』	竹内	6月6日	Web開催	参加者74名(会員29名、会員外45名：ST12名、OT2名、Ns14名、介護福祉士1名、ケアマネージャー1名、管理栄養士4名、その他4名) 講演 「人生最終段階の食支援 ～お食い締め～」
「言語聴覚の日」のイベント	塩本	8月29日	学びの杜のいちカレード オープンギャラリー	内 容：パネル展示、川柳コンテスト 来場者：20名 参加者：広報部員8名
川柳コンテスト	塩本	募集 7/5～8/7 投票 8/29～9/19	募集 県士会HP (Web上) 投票 Web上と 言語聴覚の日 イベント会場にて	川柳コンテストをメール等で募集し、Web上と言語聴覚の日のイベント会場とで投票を行った。 9月22日にHP上で結果を報告した。 募集俳句：応募総数238句 掲載は131句 参加者：126名+関西総合リハビリテーション専門学校生徒4グループ、教員1名 (県内10人 その他、県外) 表彰：金賞1名 銀賞2名 銅賞3名 入選5名
2021年度いしかわ介護フェスタへのブース出展	塩本	中止		*新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止
お食い締め浸透実践講座	竹内	11月7日	Web開催	参加者45名(会員14名、会員外31名：ST3名、OT4名、Ns14名、介護福祉士1名、ケアマネージャー1名、管理栄養士4名、その他4名) 「『お食い締め』に向けて ～食形態の選び方と介助の工夫」
小児教育相談会	田嶋	中止		*新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止
失語症者向け意思疎通支援者養成事業 (石川県委託事業) ①失語症者向け意思疎通支援者養成研修会	田畑	9月25日・26日 10月3日・23日・31日 11月6日・27日 12月5日・11日 (計9回開催)	金沢市 ものづくり会館 能美市 防災センター	定員5名 講師 延べ19名(ST17名、PT1名、県職員1名) スタッフ、チューター 延べ24名(ST24名) 当事者講師 延べ20名 修了者 5名 (1) 失語症とは何か (2) 意思疎通支援者の役割、心構え及び倫理 (3) コミュニケーション支援 (4) 外出同行支援 (5) 身体介助 (6) その他、失語症者の意思疎通支援に必要な事項 新たに失語症友の会会員以外の当事者の実習参加、昨年度受講者の実習参加、県士会会員の見学を行った。
②失語症カフェ	田畑	中止		*新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
会のホームページの刷新 管理運営	木村	通年		ホームページの更新、内容充実を図った。 メーリングリストの管理を行った。

自治体や他団体が開催する各種研修会・イベントへの派遣

石川県立看護大学講義 11月17日
 石川県失語症友の会例会・合同研修会
 石川県脳卒中リハビリテーション協会 言語リハビリ教室
 石川県脳卒中リハビリテーション協会話し方大会 中止
 金沢市認知症カフェ
 金沢市フレイル予防事業
 特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業 (珠洲、輪島、七尾、明和、ろう、小松、小松瀬領、錦城)
 加賀脳卒中地域連携協議会
 2021年度学校教育連携担当者連絡協議会
 石川県地域リハビリテーション推進検討会議
 石川県在宅医療推進協議会

3. 言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

事業名	担当者	開催日	参加者及び内容
アンケート調査 VF・VE・訪問リハ	石原	7月10日～ 7月20日	毎年行っている外来VE、VF検査実施施設、訪問リハ実施施設一覧の更新を行った。
小児領域で働く(小児を担当する)県士会員との 情報交換会	藤田	1月23日	参加者：15名(会員15名、会員外0名) Web開催

4. 言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

事業名	担当者	開催日	参加者及び内容
石川県言語聴覚士会年報 の発行	筒井	5月23日	今年度の事業を年報としてまとめ、内容の充実化と読みやすい紙面づくりを図った。
ニュースレターの発行 (年4回)	筒井	6月、9月 12月、3月	年4回ニュースレターを作成し、期日通りに発行することができた。

5. 関係団体との連携及び協力に関する事業

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
北陸地域リハST連絡会	竹内	2月25日 3月7日	SNS上	SNS上でミーティング実施
石川県訪問リハビリテーション 連絡会	金沢	4月6日	Web会議	訪問リハ・地域リーダー会議報告、訪問リハ実務者 研修会の研修の日程や内容について協議した。
		5月27日		
		7月26日		
		9月27日		
		2月7日		
石川県理学療法士会 作業療法士会 言語聴覚士会連絡会	徳田 上野	3月28日	Web会議	県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア 会議・介護予防事業に関する研修会や実践報告会 の企画運営を行った。研修会修了者をリストアップし、 市町事業への協力者登録を行った。
		5月25日		
		6月25日		
		7月19日		
		10月21日		
		1月11日		
		2月1日		
石川JRAT会議	金沢	2月15日	Web会議	幹事会、小委員会が各々開催され、石川JRAT研 修会の準備、県との協定に向けた策定作り、石川 JRAT隊員の登録に向け、会長・副会長が各病院・ 施設への協力依頼を行った。
		3月16日		
		5月25日		
		6月7日		
		7月20日		
		9月14日		
		10月27日		
		12月16日		
		1月22日		
		3月23日		

6. 福利厚生事業

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
会員懇親会・交流会	南川	中止		*新型コロナウイルス感染拡大のため中止
企業展示	中村	その都度ML またニュース レターで配信	MLにて企業PR 動画をリンクして 配信、またニュー スレターに投稿	お薦めの動画(レシピ動画や、商品の使用方法の デモンストレーション、新商品プレゼンなど)の配信を 実施した。
		11月7日	お食い締め講座	商品プレゼンに2社参加した。
		11月21日	第19回 北陸言語聴覚 学術集会	北陸言語聴覚学術集会の抄録集の巻末付録での 商品PRとして6社が掲載参加した。
会員向け災害時安否確認 の登録	金沢	通年		3月31日現在 116名登録済

7. 組織の運営・管理

事業名	担当者	開催日	開催場所	参加者及び内容
定時社員総会	藪越	5月23日	ハイブリッド (Webと参集) 金沢市ものづくり 会館	公益社団法人第4回定時社員総会として170名の 総社員中出席社員(書面評決による者を含む)は 158名(委任状127名)。第1～3号議案すべて承認。
理事会	徳田	*4月25日	Web会議 *ハイブリッド会議 (Webと参集) 金沢市ものづくり 会館	
		*5月23日		
		7月11日		
		9月12日		
		11月14日		
		*1月16日		
		2月27日		
		3月20日		
局・WGミーティング	各理事	適宜		

3. 2022年度の主な事業・行事予定

月日（曜）	事業・行事
5月22日（日）	総会
5月	年報発行
6月	ニュースレター発行
7月24日（日）	お仕事まるわかり事典 進学・体験の1dayフェア ブース出展
8月28日（日）	言語聴覚の日イベント
9月	ニュースレター発行
10月 中旬	いしかわ介護フェスタ
12月	ニュースレター発行
3月	ニュースレター発行

*キャリアアップ支援事業（通年）

*会員向け災害時安否確認の登録（通年）

《地域支援局》

●日程未定

地域リハビリダー養成研修会
訪問リハビリテーション実務者研修会
県民公開講座
地域リハ塾（石川・富山・福井）

《学術部より》

●日程未定

第20回北陸言語聴覚学術集会
第11回石川県言語聴覚学術集会
日本言語聴覚士協会生涯学習
→専門講座
→ポイント対象研修会

《研修部より》

●日程未定

症例検討会
援助的コミュニケーション入門研修会
日本言語聴覚士協会生涯学習基礎講座
「言語聴覚療法の動向」「協会の役割と機構」
ベーシックコース
「摂食嚥下障害」「機能性構音障害」
「医療・介護・社会福祉」

《災害リハWGより》

●日程未定

石川JRAT研修会

●理事会開催予定

4月24日、7月10日、9月11日、11月13日、
1月15日、2月26日、3月12日

*新型コロナウイルスによる影響で予定が変更される可能性が有ります。

4. 石川県言語聴覚士会主催 2021 年度 研修会一覧

※Web開催にはZoomを使用

年月日(曜)	内 容	講師・発表者	場 所	担当
2021. 6.6 (日)	県民公開講座 「能登で新・お食い締め」	愛知学院大学 心身科学部 牧野 日和 准教授	Web開催	地 域 支援局
2021. 8.1 (日)	高度・専門医療人材育成支援事業 研修会講演 「コロナ禍における 訪問リハビリテーションの在り方 ～感染予防の基礎を踏まえた 訪問リハビリの展開～」 実践報告	八尾はあとふる病院 日本訪問リハビリテーション 協会理事 古賀 阿沙子 氏 野々市訪問看護 ステーション 大塚 武 氏 あつとほむな訪問看護 ステーション やまと 森田 満美子 氏 かがやきクリニック 金沢 一恵 会員	Web開催	地 域 支援局
2021. 8.7 (土)	地域リハ塾 in 富山 ワークショップ 「自宅で自分で出来る発声法 ～声道の準狭窄を用いた様々な発声法～」	介護老人保健施設 シルバークケア今泉 市橋 健 氏	Web開催	地 域 支援局
2021. 8.28 (土)	生涯学習プログラム専門講座 「難聴の基礎知識と高齢難聴者への対応」	帝京大学病院 斎藤 宏 氏	Web開催	学術部
2021. 9.18 (土)	生涯学習プログラム基礎講座 「職種連携論」 「臨床のマネジメントと職業倫理」	恵寿総合病院 諏訪 美幸 会員 金沢こども医療福祉 センター 藤田 徹 会員	Web開催	研修部
2021. 10.24 (日)	生涯学習プログラム ポイント取得対象研修会 「吃音の言語聴覚療法の最近の動向」	金沢大学人間社会 研究域学校教育系 小林 宏明 会員	Web開催	研修部
2021. 11.4 (木)	能登地区症例検討会 「左被殻出血により失語症を呈した一例」	恵寿総合病院 藪下 千穂 会員	Web開催	研修部
2021. 11.7 (日)	お食い締め浸透実践講座 「～『お食い締め』に向けて～ 食形態の選び方と介助の工夫」	愛知学院大学 心身科学部 牧野 日和 准教授	Web開催	地 域 支援局

年月日(曜)	内 容	講師・発表者	場 所	担当
2021. 11.21 (日)	第19回北陸言語学術集会 「人工内耳を装用した 難聴児一例の言語獲得の経過」 「失語症の新聞記者に対して “記者”としての復職を支援した一例」 「金沢医療センターにおける音声治療とその 効果について」 石川県言語聴覚士会 発足20周年記念講演会 「前頭葉機能障害を抑制障害として捉える」	恵寿総合病院 真田 はるか 会員 金沢医科大学病院 松井 加名子 会員 独立行政法人国立病院 機構金沢医療センター 千羽 真央 会員 慶應義塾大学医学部 客員教授 鹿島 晴雄 氏	Web開催	学術部
2021. 12.2 (木)	加賀地区症例検討会 「偽性球麻痺を呈し 栄養ルートの確立に難渋した一例」	小松市民病院 川邊 莉子 会員	小松市民病院	研修部
2022. 1.23 (日)	会員研修プログラムベーシックコース 「高次脳機能障害」	済生会金沢病院 石原 亜紀 会員	Web開催	研修部
2022. 2.5 (土)	地域リハ塾 in ふくい 「どんな教材を使っている？」 ～話してみたい、聞いてみたい、 そんなこと～	市立敦賀病院 中澤 久夫 氏 嶋田病院 堀田 拓馬 氏 トゥモロズリハビリ テーショングループ 和久利 亮太 氏	Web開催	地 域 支援局
2022. 2.6 (日)	会員研修プログラムベーシックコース 「言語発達障害」	金沢こども医療 福祉センター 藤田 徹 会員	Web開催	研修部
2022. 2.13 (日)	会員研修プログラムベーシックコース 「運動障害性構音障害」	恵寿総合病院 荒尾 祐希 会員	Web開催	研修部
2022. 2.24 (木)	加賀地区症例検討会 「失語症・音声障害を呈し、実用的 コミュニケーションの場を通して声量増大・ 自発話増加に繋げた症例」	やわたメディカル センター 北村 萌菜 会員	Web開催	研修部
2022. 3.6 (日)	会員研修プログラムベーシックコース 「同職種連携 ～失語症者の生活期の支援 について考える～」	かがやきクリニック 金沢 一恵 会員	Web開催	研修部
2022. 3.13 (日)	ST向け 「基礎から学ぶ呼吸器リハビリテーション」 研修会	やまと@ホーム クリニック 神野 俊介 氏	Web開催	研修部

1) 研修部 研修会

① 症例検討会 抄録 (能登地区 加賀地区)

■左被殻出血により失語症を呈した一例

恵寿総合病院

藪下 千穂



【はじめに】今回左被殻出血により失語症を呈した一例を担当し、評価・訓練を行う機会を得たので報告する。

【症例】50歳代の男性。矯正右利き（父親も矯正右利き）。最終学歴は高卒。職業は無職（元蒔絵師）。入院前のADLは自立、妻と二人暮らし。既往に未治療の高血压あり。

【現病歴】X年Y月Z日本人が倒れているところを妻が発見し、当院へ搬送され左被殻出血にて入院。Z+1日理学療法、作業療法、言語聴覚療法開始。Z+31日回復期リハビリテーション病棟に入棟。

【医学的診断名】左被殻出血

【神経学的所見】右片麻痺

【神経心理学的所見】失語症

【画像所見】Z+1日の頭部CTでは、左被殻限局の血種（30×23×35mm 12ml）を認めた。脳室内穿破無し。

【初期評価Z+1～19日】意識清明、コミュニケーション態度は良好。日常会話は短文レベルで成立していたが、時折質問内容と異なる返答をされ聴覚的理解は短文レベルから低下していた。発話は非流暢で語性錯語もみられたが自己修正することもあった。発話速度の低下、声量の低下からやや聞き取りにくさがみられた。知的機能面では、RCPM：29/36点。言語機能面では、SLTA：聴くでは単語・短文の理解は10/10正答、口頭命令に従うでは8/10正答で、物品の選択や位置関係で誤りがみられた。話すでは呼称は15/20正答で語性錯語、喚語困難が

出現し、低頻度語で成績の低下を認めた。まんがの説明は段階5、語の列挙は6語であった。復唱、音読は共に文レベルまで良好であった。読むでは漢字・仮名ともに単語は10/10正答。書字命令に従うでは8/10正答で口頭命令に従うと同様の誤りを認めた。書くでは、漢字単語の書字は2/5正答、語性錯書や保続が出現した。漢字単語の書取は3/5正答で形態性錯書もみられた。仮名单語の書字・書取ではそれぞれ0/5正答、1/5正答であり、文字想起から困難で形態性錯書や音韻性錯書も認めた。失語症構文検査：聴理解の理解レベルはⅡ語順、関係節文は通過、読解の理解レベルはⅠ語の意味、関係節文は不通過、産生では助詞の表出で誤りがみられ、総得点17/60点、正答項目数5/15と低下がみられた。

【問題点】#短文レベルから聴覚的理解・読解共に低下あり #喚語困難 #語性錯語 #発話の非流暢さあり #文の表出で助詞の誤りあり #語の想起低下 #文字想起困難 #会話時に聞き手の推測が必要

【目標】短期：短文レベルの理解向上、喚語困難・語性錯語の改善。長期：日常会話がスムーズに行える。

【訓練】文レベルの読解訓練、単語の呼称訓練、文の産生訓練

【再評価Z+31～38日】理解面は文レベルで良好となり、口頭でのコミュニケーションは問題なく可能。表出面では介入初期に見られた声量の低下による聞き取りにくさは改善された。錯語や喚語困難は軽減していたが、自発話ではよどみがみられ流暢性にかける場面あり。語想起の低下は残存していた。失語症構文検査：聴理解の理解レベルはⅣ助詞補文（+）、関係節文は通過、読解の理解レベルはⅢ助詞補文（-）、関係節文は通過、産生では総得点50/60点、正答項目数13/15と理解面・表出面の両方で改善がみられた。また、本症例は矯正右利きであることから、エジンバラ利き手テストを実施し利き手指数が33.3、弱い右利きと判断した。また、右半球のコミュニケーションの評価として、状況を分析・統合する能力に関する評価、

慣用句の理解、物語を聞いて内容をまとめる能力についての評価も実施したが、大きな問題はみられなかった。

【考察】本症例は左被殻出血により失語症を呈した。初回評価時では声量の低下を認め、SLTAの結果より軽度の聴覚的理解障害、語想起障害を認めたが発話開始困難さは認めず、復唱は良好であったため、失語症のタイプについては古典分類での分類は困難であった。本症例の父親も矯正右利きであり、家族性素因はあること、また弱い右利きであることから、右半球機能におけるコミュニケーション障害を呈する可能性も考えた。しかし右半球損傷によるコミュニケーション障害は確認されなかったため、家族性素因はあるものの言語優位半球は左半球ではないかと考えた。予後については、病巣は被殻に局限されており、血腫量も12mlと軽度であったことから、再評価時では喚語困難や語想起の低下は残存していたものの、改善途中であり今後失語症状はほとんど残存しない、あるいはごく軽度の喚語困難で留まる程度に改善するのではないかと考えた。

■偽性球麻痺を呈し栄養ルートの確立に難渋した一例

小松市民病院
川邊 莉子



【はじめに】多発性脳梗塞により偽性球麻痺を呈した一例で栄養ルート確立までの経緯について考察したため、ここに報告する。

【症例】70歳代・男性。発語困難を主訴に近院を受診し脳梗塞疑いにて当院に紹介となった。左脳梗塞の既往があり入院前はT字杖歩行、自宅内ADL自立。食事は常食摂取も飲み込みにくさがあった。脳画像所見：右前頭葉に新鮮梗塞、左基底核・左小脳に陳旧性梗塞、両側大脳・右視床・小脳に出血後変化を認めた。発症初日、左顔面神経麻痺・左舌運動麻痺あり発話

明瞭度4.5。安静時より痰がらみあり。トロミ水摂取時嚥下反射惹起あり、ムセはなく嚥下後の咽頭残留音と口腔内残留を認めた。BRS：上肢V、手指V、下肢V。MMT：左上下肢3～4。移乗は一部介助、移動は車椅子介助。HDS-R/MMSE：15/20。

【経過】発症1週間で発話明瞭度は2.0に改善したが声量低下、舌の運動範囲・巧緻性低下、筋力低下は依然として認められた。嚥下障害は重度に残存しST下にて直接嚥下訓練実施するも咽頭残留を認めた。発症2日目より経鼻経管栄養の投与を開始したが、誤嚥性肺炎発症による中断があり1200kcal/日を確保できたのは11日目であった。11日目にVE/VF検査を実施。嚥下圧弱く、一度の嚥下では中等量の咽頭残留を認めるも複数回の追加嚥下によりほぼ解消。直接誤嚥は確認できず、翌日より3食経口摂取を目指し、ST下にて1食からペースト状栄養補助食品、トロミ茶の提供を開始。一口量の調整や姿勢調整を試みるも熱発、痰の増加を繰り返し、20日目に再度VE検査実施。嚥下反射惹起あるも嚥下圧低下著明。嚥下後喉頭蓋～梨状窩に残留あり、一口量が3mlを超えると喉頭侵入あり。ムセや追加嚥下なく咽頭感覚低下著明。以降経口摂取は中止、胃瘻造設の方針となり32日目にPEG施行。50日目、嚥下機能は唾液嚥下から不十分で誤嚥性肺炎が慢性化している状態。体重は発症初日52kg→46.8kgと減少、筋力低下や易疲労性、病棟内ADL低下を認める。

【考察】4週間以上の長期経腸栄養を施行する場合は胃瘻を選択することが推奨されている¹⁾が、本症例が胃瘻造設に至ったのは発症より32日後と推奨されている日数を超える結果となった。1度目のVE/VF検査において複数回嚥下にて梨状窩の残留が減少した点や直接誤嚥を認めなかった点から経口摂取を進める方針としたことが要因と考える。高柳ら²⁾によると、入院中の絶食患者の経口摂取再開時に複数の予測因子を念頭に嚥下機能評価を行うことは非常に有用であるとされている。今回の経験からも、検査所見に加え、身体能力や口腔運動機能、日常の唾液嚥下などを含めた評価・予後予測が重要で

あると思われた。また、本症例は経鼻経管栄養の投与開始が遅れ、栄養管理が不十分であったことも配慮する必要があった。石田ら³⁾によると、サルコペニアの予防が摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の予防につながるとされており、リハビリテーション栄養の視点による医原性サルコペニアの予防や、今後、攻めのリハビリテーション栄養管理によるサルコペニアの改善が求められると考える。

〈引用文献〉

- 1) 日本静脈経腸栄養学会：静脈経腸栄養ガイドライン 第3版. 照林社. 2013.
- 2) 高柳 博久ほか：入院患者の経口摂取再開時の嚥下機能評価－経口摂取可否の予測因子の検討を中心に－. 日耳鼻 116：695－702. 2013
- 3) 石田 洋子ほか：誤嚥性肺炎後の廃用症候群に対する回復期リハビリテーションの転帰. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌. 第29巻. 第1号：111－116. 2020

■実用的コミュニケーションの場を通して声量増大・自発話増加に繋げた症例

やわたメディカルセンター
北村 萌菜



【症例情報】70歳代男性。右利き。病前生活は独歩、ADL全自立。妻、次女家族と7人暮らし。日中は妻と2人で過ごしていた。病前外出機会は少なく、ベッドに臥床傾向であった。

【医学的診断名】アテローム血栓性脳梗塞（左大脳半球）

【神経学的所見】右片麻痺、失語症、注意障害

【現病歴】X日下肢の脱力感を認めA病院へ救急搬送され、右後頭葉・基底核に陳旧性梗塞、多発性脳梗塞（両側基底核、視床、深部白質）を認め、入院加療となった。X+5日意識障害、失語悪化MRIにて脳梗塞進行あり。アテローム血栓性脳梗塞と診断。今後のリハを希望しX+

56日当院転院。

【初期評価結果】HDS-R：6/30点（見当識、計算、逆唱、物品記銘、語想起で減点） MMSE：実施困難 RCPM：28/36点、標準偏差内。最長発声持続時間：3.2秒、ブローイング（5cm H2O）：3.6秒 GRBAS：G（2）、R（0）、B（2）、A（1）、S（0） SLTA：聴理解は短文レベルで10/10正答。口頭指示に従うの項目では1/10正答と低下あり。読解は短文レベルで7/10正答。聴理解、読解ともに最大4語文レベルで可能。表出面は喚語困難、音韻性錯語あるが口頭にて最大2語文レベルで可能。復唱は5語文可能。

【短期目標】促しなしで有声音にて挨拶が行える。体調、尿便意など身の回りの事がコールを使用し依頼できる（2週間）。

【経過】本症例は喚語困難や声量低下を自覚しているが、他者の促しなしでは声量増大が困難であり、自発話も乏しく、尿便意など身の回りの訴えが困難な状態であった。そのため、まずは声量増大や単語レベルの表出改善を目的に介入を行った。個別介入では、プッシング法を用いた発声訓練、3m離れた場所での単語伝達練習、単語～2語文レベルの理解・表出訓練を実施した。また、週2回個別介入とは別に失語症、構音障害などコミュニケーションに支援が必要な患者が集まる場への参加を促していた。集団の場では、司会（他の参加者に向け4～5語文レベルの問題を提示し意見を求める役割）、クイズやリズムゲームなどの課題、話題に沿った会話を促していた。集団の場に参加した当初は寡黙な印象であり自ら発表する機会は少なかったが、4回目の参加から単語レベルの相槌を認め、司会の役割も担うようになった。中間評価（X+93日）では、初期評価に比べ最長発声持続時間（3.2→4.3秒）やブローイングの秒数（3.6→6.4秒）が改善しただけでなく、SLTAの聴理解（口頭指示に従う：1/10→5/10正答）、呼称（13/20→18/20正答）の正答率改善を認めた。病棟場面では、有声音での挨拶が可能となった。ナースコールを使用した依頼は不十分なままであったが、周囲に人がいると尿便意を訴えることができ、療法以外の時間で自

ら妻に電話をかける様子がみられるようになった。

【考察】本症例は、集団の場や妻との連絡機会を通して会話中の声量増大やコミュニケーション意欲の改善を認めた。竹内¹⁾ら（2014）は患者同士の交流の意義として、「①自己の言語障害に気づき内省を深める手がかりになる、②新しいコミュニケーション行動を学ぶ場となる、③人前での自己表現の練習になる」と述べており、実用的コミュニケーションの改善を目指すためには、「実際の生活場面に入り込み、家族も巻き込んだアプローチが必要である」と述べている。このことから、個別療法だけでなく、

集団の場への参加や家族との連絡機会が、本人の言語・音声機能面での自己フィードバックを行う良い機会となり、声量増大や言語機能の改善にも繋がったのではないかと考える。

今後は、妻や集団メンバーなど特定の相手との会話中だけでなく、日常会話場面での声量増大・自発話増加の汎化に向け個別介入でも言語・音声機能面におけるフィードバック機会を増やしていきたい。

【参考文献】

- 1) 竹内愛子、河内十郎：脳卒中後のリハビリテーション障害. 2014

② 吃音研修会（生涯学習プログラムポイント取得対象研修会）

■「吃音の言語聴覚療法の最近の動向」開催報告

開催日時：令和3年10月24日（日）9:30～12:00

開催方法：Web（Zoom）開催

講師：金沢大学 人間社会研究域学校教育系 小林 宏明 会員

毎年開催されている吃音の研修会ですが、今年は「吃音の言語聴覚療法の最近の動向」と題して、「吃音の言語聴覚療法をめぐる最近のトピック」と、「吃音の言語聴覚療法の実際」について講義していただきました。

「吃音の言語聴覚療法をめぐる最近のトピック」では、吃音のある方の手帳の取得が認知されてきたこと、英検や入学試験などで合理的配慮が受けられるようになってきたこと、クラタリング（早口言語症）への関心の高まりなどについて詳しく教えていただきました。また、「吃音の言語聴覚療法の実際」では、幼児期や学齢期以降の対応についてお話いただきました。

今回の講義を通じて、吃音に対する社会的な関心が高まっていることを強く感じました。今後、吃音の方の手帳の取得や、試験等での合理的配慮について、言語聴覚士への問い合わせが増えることも予想されます。そのような場合に的確に対応できるように、吃音についてさらに深く学んでいくだけでなく、社会の動きにも目を向けていきたいと思いました。

城北病院 大場 美穂 ニュースレター2021.12

2) 学術部 研修会・講演会

① 生涯学習プログラム専門講座

■「難聴の基礎知識と高齢難聴者への対応」開催報告

開催日時：令和3年8月28日(土) 13:30～15:00

開催方法：Web (Zoom) 開催

講師：帝京大学病院 言語聴覚士 齋藤 宏 氏

8月28日に開催されました生涯学習プログラム専門講座「難聴の基礎知識と高齢難聴者への対応」に参加し、難聴の基礎知識や難聴者のコミュニケーションの実態と対応方法などを学びました。言語聴覚士は専門家として聴覚障害も学びますが、知識だけでなく難聴者の聞こえ方を想像し、その人の立場を考えた配慮を行うことも大切な役割だというお言葉が印象的でした。難聴者は普段の生活で活動の制限や心理的負担を強いられていますが、見えない障害であるため周囲の理解を得られにくいという難しさがあります。また、本人と家族間で難聴の受け止め方にもズレがあり、お互いが不満を抱えていることも多くあります。言語聴覚士は本人と家族それぞれの立場に配慮した上で、両者の相互理解を深め、対応策を指導していくことが大切だと改めて学びました。

恵寿総合病院 藪下 千穂 ニュースレター2021.9

② 石川県言語聴覚士会発足20周年記念講演会

■「前頭葉機能障害を抑制障害として捉える」開催報告

開催日時：令和3年11月21日(日) 11:00～12:30

開催方法：Web (Zoom) 開催

講師：慶應義塾大学医学部 客員教授 鹿島 晴雄 氏

今年度の北陸言語聴覚学術集会では、去年延期となっていた石川県言語聴覚士会発足20周年記念講演会も併せて開催され、高次脳機能障害、特に前頭葉機能障害・記憶障害の評価法やリハビリテーションを開発されている鹿島晴雄先生にご講演いただきました。

講義は鹿島先生が前頭葉機能研究を始められた40年ほど前のお話から始まりました。当時、統合失調症と前頭葉機能との関連が注目されており、膨大な数の研究、様々な前頭葉検査法が作成されていました。しかし、前頭葉機能に関する理論には確立されたものではなく、検査法も市販されているものはほとんどない状況でした。このような中で、先生は前頭葉機能障害を、継次的抑制障害すなわち「やめられない型」の障害として捉え、検査を作成して検討してこられたとのことでした。

今回の講演では、前頭葉機能障害についてご教示いただくだけでなく、先生が前頭葉機能障害を如何なる方法で検討してきたのか、またどのような考え方で検査を作ってこられたのかを詳しくご説明いただき、大変興味深く拝聴させていただきました。今回、いろいろな検査法の考え方などを改めて学ぶことが出来ましたので、また日々の臨床に活かしていきたいと思います。

城北病院 長原 幸穂 ニュースレター2021.12

③ 第19回 北陸言語聴覚学術集会抄録

■人工内耳を装用した難聴児一例の言語獲得の経過

○真田はるか¹⁾、木村聖子¹⁾
能登谷晶子¹⁾²⁾³⁾、諏訪美幸¹⁾

¹⁾ 恵寿総合病院

リハビリテーションセンター 言語療法課

²⁾ 福井医療大学 保健医療学部

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

³⁾ ひょうたん町耳鼻咽喉科医院



【はじめに】聴覚障害児の言語療法は聴覚口話法、手話法など諸家の一致がまだなく、人工内耳（以下、C I）でも聴覚障害児の言語習得の問題は解決に至っていない。当院では、金沢方式（文字—音声法）で聴覚障害児の訓練を行っている。今回、C Iを装用した一例の0歳から4歳までの言語獲得経過を報告する。

【症例】現在4歳代の先天性聴覚障害児。生育歴：在胎37週、出生体重2600g台にて出生。N H Sでリファーと判定され、3ヵ月時にA病院にてA S S Rで左1kHzが110dB以外全て反応なしとなり高度難聴と診断。7ヵ月時より両耳補聴器装用開始。9ヵ月時に金沢方式による療育を希望され、S T開始。1歳8ヵ月時にA病院にて片耳C I（コクレア社C I24）埋め込み術を受け、Nucleus6で音入れ実施。C Iの平均装用閾値は30.0dB以下。本児は発達も良く、難聴以外の合併症は認めていない。

【訓練】金沢方式では音声言語の獲得を目指す。訓練方針は、前言語期には養育者の話しかけに加えてジェスチャー（以下、G）も併用して言語刺激を行う。1歳頃から始まる言語期では、音声言語とGの刺激に加えて文字言語理解も導入する。訓練体制は、週1回の集団訓練と隔週の個別指導である。担当S Tは、養育者による家庭での記録を参考にして、児の発達に沿った言語課題を設定し、養育者が子どもと遊

びながら訓練できるように指導を行う。Gは日本手話ではなく、日本語に沿った日本語対応手話を用いて、助詞の部分などは指文字を使用している。表出は日常生活の中で出現したものを教え、理解語彙は生活の中での確認以外に、Gや聴覚読話を用いて絵や実物を1/3選択で日を替えて4回可能な時とした。

【言語獲得経過】生後9ヵ月から4ヵ月後の1歳1ヵ月には本児からGで初表出「どうぞ」がみられた。1歳4ヵ月には2語連鎖のG表出「パパどこ」を認め、1歳11ヵ月で格助詞付きの2語連鎖のG表出「おやつを頂戴」を認めた。2歳2ヵ月には3語文「苺のグミを頂戴」が表出した。4歳までの語彙数は、聴覚読話1279語、手話1351語、自発語694語で、表出文は時制、比較、授受、可能、理由、仮定、使役の文型が出現した。4歳1ヵ月時に聴覚読話で施行したP V T-Rでは、V A 3歳10ヵ月（S S 9）となった。

【まとめ】C Iを装用した聴覚障害児一例の0歳代から4歳頃までの言語経過を報告した。1歳代にはGで始語と格助詞が表出し、2歳代で様々な文型が出現し、3歳代で基本的な文型がほぼ全て出現し、順調な発達を示した。

■失語症の新聞記者に対して“記者”としての復職を支援した一例

○松井加名子¹⁾、経田香織¹⁾
田邊 望²⁾

¹⁾ 金沢医科大学病院

心身機能回復技術部門

²⁾ 金沢医科大学病院

リハビリテーション医学科



【はじめに】左被殻出血後に失語症を呈した新聞記者の患者に対し、“記者”としての復職支援を目的に、勤務先関係者を交えた退院前カンファレンスを行った上で、退院後も外来での言語リハビリ（S T）を継続し、上記復職を果た

した一例を経験したので報告する。

【症例紹介】50代男性。職業：新聞記者。妻と子供3人と同居。右利き。〔既往〕高血圧症、糖尿病、高脂血症。〔神経心理学的所見〕失語症、記憶障害、遂行機能障害。〔神経学的所見〕上肢に強い右片麻痺。〔現病歴〕X日左被殻出血を発症、当院脳神経外科へ入院、保存的加療となる。X+1日リハビリ開始。X+23日回復期病棟転棟、利き手交換を含めリハビリを強化・継続。X+100日退院前カンファレンス実施、X+101日自宅退院。

【退院時評価】SLTA：175/205点（聴38、話65、読39、書34）、BADS：障害あり（単純課題は成績良）、WMS-R：言語性記憶50、視覚性記憶85、一般的記憶58、注意/集中力110、遅延再生66。WAIS-III：VIQ77、PIQ79、FIQ76、VC73、PO87、WM85、PS78。

【支援内容】勤務先関係者を交えた退院前カンファレンス（主治医、PT/OT/ST、看護師、勤務先上司2名、症例、妻・長男・長女）では、各障害の現状とコミュニケーション上の注意点について情報共有。加えて、勤務先上司へは、復職当初は単純で急がない作業が望ましいことを説明し配慮を求め、家族へは自主訓練等への協力を仰ぎ、いずれも同意を得た。退院後の外来STでは特に表出面の改善を目的に、話す：語想起、情景画説明、意見表出。書く：文章作成。業務支援：キーボード配置の確認、ローマ字仮名変換表の作成、傾聴を継続した。

【経過】X+131日外来ST開始（週1回）、X+148日復職。復職時の業務は読者投稿の打ち込み作業であったが、その後、誤字等の修正業務も加わり、現在は紙面構成や投稿選択に関わるに至る。その過程で、復職11ヵ月後、自らの闘病過程を題材とした月1回の連載記事を依頼され、当院関係者を取材し、外来STの時間も利用し記事としてまとめ、デスクのチェックを経て連載するという流れを繰り返し、予定の連載を無事完了。その結果、“記者”としてのコラム連載が継続となる。復職2年2ヵ月後の現在、月2本の連載を継続中である。

【考察】退院前に勤務先関係者も交えたカン

ファレンスを行うことで、家族のみならず職場を巻き込んだ支援体制を構築した上で、退院後も外来にて職責拡大を目指したSTを継続したことで効果的な復職支援が果たせたと考える。

■金沢医療センターにおける音声治療とその効果について

○千羽真央¹⁾、酒野千枝¹⁾

清水聡子¹⁾、宗石順子¹⁾

青木蓉子²⁾、瀧口哲也²⁾

¹⁾国立病院機構金沢医療センター

リハビリテーション科

²⁾国立病院機構金沢医療センター

耳鼻咽喉科



【目的】金沢医療センター耳鼻咽喉科外来における音声障害者の疾患別の割合、音声治療期間と回数、治療効果についてまとめたので報告する。

【対象】2020年6月～2021年6月に音声障害を主訴に当院を受診した27名のうち、音声治療を施行した21症例（男性8例、女性13例、平均年齢54.3±23.0歳）。

【方法】疾患別内訳、治療期間と回数、治療効果についてカルテより後方視的に検討した。聴覚的印象評価のGRBAS尺度と母音の最長発声持続時間（MPT）を治療前後で比較し、その有意差について検討した。音声治療終了については、①患者の主訴の消失、②喉頭所見の改善、③音声機能評価における改善、④外科的な治療方針となった時、の4つで判断した。

【結果】疾患別の内訳は、声帯麻痺、声帯萎縮ともに5例（24%）と多く、続いて機能性発声障害4例（19%）、痙攣性発声障害3例（14%）の順であった。声帯ポリープ、声帯結節、声帯白板症、心因性発声障害はそれぞれ1例であった。平均治療期間は10.1週、平均治療回数4.4回で2週間に1回の頻度であった。治療前後のGRBAS尺度は、G、R、B成分で有意に改善し、MPTは平均13.8秒から17.2秒へ有意に延長した。

【考察】音声障害の疫学に関する報告では、音声障害疾患の内訳は声帯結節、声帯ポリープが圧倒的に多いとされているが、当院ではその疾患例が少なかった。今回の検討は2020-2021年のCOVID-19が流行している期間であり、声を使用する環境や受診環境が変化した年であった。社会環境の変化が音声障害の疾患別割合に影響するのか、今後長期的な検討をしていく必要がある。音声治療に関する報告では平均治療期間と回数は9.3週間で10.9回であり、1週間に

1～2回の頻度が一般的とされている。当院では、少ない治療回数でも治療後にGRB成分とMPTの改善を認めた。当院の治療の工夫として、初回から2回目までは2週間以内に治療介入し、治療時間は概ね1時間を設けている。また、3～4回目までに患者が治療効果を実感するような治療計画を立てている。今後、音声治療を短期間にかつ少ない頻度で終了するために、疾患の種類や重症度、音声治療の内容による違いを検討する必要がある。

3) 地域支援局 研修会

お食い締め浸透実践講座

■「～『お食い締め』に向けて～ 食形態の選び方と介助の工夫」開催報告

開催日時：令和3年11月7日(日) 9:30～13:20

開催方法：Web (Zoom) 開催

講師：愛知学院大学 心身科学部准教授 牧野 日和 氏

6月に行われた講義の復習、身体構造、嚥下調整食分類2021、手元調整、事例と今回も盛りだくさんの内容でした。

患者様や家族様、関わるスタッフが話し合う機会を持ち、互いに理解する、皆が同じ方向で支援していき折り目を付けていくことの大切さが今回の講義で一番印象に残りました。身体構造から飲食物の通り道を考えること、改訂された嚥下調整食分類2021についても学び新しい知識を得ることができました。また、ゼリーを用いて自ら直接体験することで一口量やスライスの厚さを感じ、確かめることができ、手元調整の重要性を改めて感じました。実際に牧野先生が関わった患者様の事例をお聞きすることができたことも経験がまだまだ足りない私には気付きが多い講義となりました。今回学んだことを活かして患者様に寄り添った支援をしていきたいです。

珠洲市総合病院 米田 暢予 ニュースレター2021.12